

【神戸市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

神戸市では、「自他を大切に 自ら考え 未来をつくる」という教育ビジョンを掲げ、子供たち一人ひとりのよさや個性を伸ばし、自ら学び、自ら考え、主体的に行動する、未来の創り手となれるよう、教育の充実に取り組んでいる。その具体的な展開に向けて、基本政策の1つとして「子供が主役のこれからの学び」を定め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実によって、主体的・対話的で深い学びの実現を目指している。また、ICTの最大限活用により、情報活用能力の育成とともに新たな学びの定着を目指して、授業改善に取り組んでいる。

【具体的な姿】

- ・児童生徒が自ら学習課題を設定し、学習過程や学習形態を自分で選択・決定しながら、課題解決に取り組んでいく姿。
- ・児童生徒が互いに考えや成果物を参照し合い、自らの学びに生かしたり、他者と協働して学び合ったりする姿。
- ・児童生徒がクラウドに蓄積された自分の学習状況を把握し、学習の進め方を試行錯誤しながら、自らの学びを調整している姿。

2. GIGA 第1期の総括

端末を活用した情報活用能力の体系表の作成・提示や授業の実践例を教員用ポータルサイトに共有する等の取組を行ってきた。しかし、令和5年度の全国学力・学習状況調査、端末活用率の結果において、「ほぼ毎日」もしくは「週3回以上」と回答した児童生徒の割合は、小学校 45.7%、中学校 44.3%と、全国平均より大きく下回った。そのことを受けて、さらに以下の取組を実施してきた。

- ・端末活用状況調査（児童生徒対象）の実施（令和5,6年度・年3回）
- ・各校へフィードバック（活用率の変容）を通した、改善サイクルの推進
- ・事務局と校長会の代表校長からなるプロジェクトチームを立ち上げ、方策を協議
- ・インターネット環境の状況改善への対応
- ・校長・GIGA担当者研修会の開催
- ・端末活用の意義等を共有し、活用が進んでいない学校に改善計画作成を提案
- ・事務局による学校訪問指導、支援による具体的なアドバイス
- ・管理職向けアプリ・ツール活用基礎研修会の開催（全12回）

これらの取組の結果、令和6年12月実施の端末活用状況調査の結果において、「ほぼ毎日」もしくは「週3回以上」と回答した児童生徒の割合は、小学校78.5%、中学校65.6%と、改善が見られた。具体的な活用場面としては、調べ学習やまとめ・表現を行う場面、教員からの資料提示等で活用されていた。一方で、児童生徒同士で考えを共有し学び合うことや1人1人の学習状況に応じて学習を調整することについては、実践が広がっていない。このことから、端末活用を促進するフェーズから、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を行うフェーズへ移行することが求められており、また、学校訪問の様子や学校現場の声や端末活用調査の結果から、学校間や教師間の格差があることも課題として挙げられる。

その解決策として、「子供が主役のこれからの学び」について、管理職や学校の中心となる教員への研修や各教科等の担当者への研修、校内の研修や授業改善のモデルとなり得る研究校の指定等、全市を挙げて授業改善に取り組むことができるようにしていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

「子供が主役のこれからの学び」の実現に向けての授業改善を進めるためには、1人1台端末が必要不可欠であるため、GIGA第1期において学校現場から挙げられている端末に対する要望を考慮しながら、今後も端末の整備および更新を行い、1人1台の端末環境を維持していく。

端末を活用した授業改善に向けては、新たな学び推進のための「指導の重点」を作成し、その中で、「授業改善の視点」や「具体的な授業場面」、「情報活用能力の育成」等の指針を示すことで、目指す姿の共有を行う。また、管理職や学校の中心となる教員への研修や各教科等の担当者への研修の内容を、1人1台端末を活用した授業改善の視点から連動させ、学校内で同じ方向を向いて取り組めるようにする。その上で、事務局が訪問支援を行いながら、各学校が研修を自走できるように促していく。そうすることで、課題である児童生徒同士で考えを共有し学び合うことや1人1人の学習状況に応じて学習を調整することを促進していく。

学校間格差の解消に向けては、校内の研修や授業改善のモデルとなり得る研究校を指定するだけでなく、文部科学省のリーディングDXスクール事業にも参加し、取組を積極的に横展開する。

また、児童生徒の心や体調の変化の早期発見、不登校等の特別な支援が必要な児童生徒への支援強化など、1人1台端末を活用することによる学びの保障に取り組んでいく。